

読む得! 在宅医療と介護の連携

～身近な事例から～ 第16回

チームで支える在宅生活

訪問診療・訪問歯科診療を利用し、 介護に「ゆとり」ができたケース

娘さんと2人暮らしの80代男性（要介護2）。大学病院、歯科、眼科に通院していましたが、難聴、認知症、歩行困難があり介助する娘さんが疲弊してしまったケースです。

心臓病と糖尿病もあり室内で転倒することが増えてきました。また難聴と認知症により、コミュニケーションにかなりの労力が必要になりました。タクシー・歩行での通院時に混乱するようになり、本人・娘さんともに強いストレスを感じるようになりました。そして大学病院のかかりつけ医から離れることに不安があったため、その状況が長く続き、同行している娘さんの心身の疲労がピークに達しました。

そこで地域の訪問診療の利用を提案し、訪問診療医師から大学病院と連携をとっていただき、悪化時には大学病院に入院できる体制ができました。眼科クリニックとも連携し、訪問診療医師が必要な薬を処方し、検査が必要な時に眼科を受診することになりました。さらに、訪問歯科診療も開始しました。在宅医療の利用により本人・娘さんともに負担が軽減し、再開は無理だと思っていた散歩ができるようになり、生活の中に心身のゆとりができました。



☆ポイント☆

- 複数の診療を受けている方でも、訪問診療を利用できます。
- 訪問診療の利用についてはかかりつけ医・ケアマネジャー・高齢者なんでも相談室などにご相談ください。